

バケツとおばあちゃん

釣谷つりたに 寿々すず

わたしのおばあちゃんは、毎年、高岡の七夕まつりにつれて行ってくれます。わたしがおぼえていないくらい小さい時から、つれて行ってくれていたそうです。

いつもは、車で出かける事が多いけど、七夕まつりの時は、万葉線にのって出かれます。わたしは、それがすごく楽しみです。

電車が来るのを待っている時、すごくあつかったです。おばあちゃんは、

「あつついねー。」

と、言いました。電車が来て、電車にのると、クーラーがかかっている、すごくすずしかったです。わたしが、気もちが良いと思っていると、おばあちゃんが、今度は、

「さむくない？」

と、聞いてきました。あつくなったり、さむくなったり、おばあちゃんはいそがしいなと思いました。

終点の高岡駅に着きました。去年は、工事中だった駅が、新しくなっていました。すると、おばあちゃんは、

「きれいやねー。すごいねー。どこから出ればいいがかねー？」

と、いそがしく言いました。

七夕まつりの会場に着くと、金魚すくいのやしがあって、わたしとお兄ちゃんがやりたいと言うと、おばあちゃんは、バケ

ツを紙ぶくろから出して、

「いっぱいとられ。」

と、言いました。だけど、わたしも、お兄ちゃんも一びきもとれなくて、ざんねんな顔をしていると、おまけで、金魚をもらえる事になりました。やしの人が、ぶくろに金魚を入れようとする時、おばあちゃんが、

「せつかくバケツ持って来たから、バケツに入れてくれる？」と、言いました。せつかくおばあちゃんは、用意してくれていたけど、本当は、わたしは、はずかしかったです。なぜかという

と、この後ずつと、金魚が入ったバケツを持ったおばあちゃんと一緒に歩く事になるからです。まわりの人に見られていると思うと、はずかしかったです。だけど、おばあちゃんは平気な顔をして、

「次、ベビーカー食べる？」

と、言ってきました。わたしはだんだんはずかしい事がどうでもよくなってきました。それに、バケツの中の金魚は広々していて気もち良さそうです。おばあちゃんは、金魚の事を考えてバケツを持って来たのかなと思いました。

おばあちゃんは、わたしの事を考えたり、金魚の事を考えたり、いそがしいです。来年は、わたしがバケツを持って行こうかなと思います。